

老健

VOL.9

2021年1月

ほっかいどう

一般社団法人北海道老人保健施設協議会

特集

支援相談員の活躍が 施設の行く末を決める!



北海道夕張市
冬のシューパロ湖

トピックス オンラインリーダー研修/
北海道社会貢献賞&
厚生労働大臣表彰者

施設紹介 「夕張」「マオイの里」

賛助会員企業Message

With Corona / After Coronaの時代 ～「new normal care」の幕開け～

一般社団法人北海道老人保健施設協議会 監事
社会福祉法人光寿会 介護老人保健施設ケアステーションひかり 理事長 **森 光弘**



はじめに pandemic disaster感染症による大災害

2020年、中国武漢に端を発するCovid-19によるpandemic disasterに世界中の人々が震撼しました。道内では、4月26日最初の感染者が確認された札幌市内介護老人保健施設のcluster事案が脳裏に焼き付いて離れません。治療もままならず12名の方々が相次いで亡くなりました。Covid-19は人の死をもって鎮まるという悪魔のような感染症です。

「pandemic disaster」は、急速に拡がり、長期間続きます。施設が単独で立ち向かう相手ではありません。天災以上の危機管理が望まれます。しかしながら、医療機関・介護施設のcluster事案は今なお飛び火し、深刻な医療崩壊を招きつつあります。

regional alliances地域連携

道内には非会員施設も含め180以上の介護老人保健施設が存在し、各施設とその地域との間には切っても切れない繋がりがあります。

したがって、clusterと化した介護施設のみならず、住民・医療機関・行政機関・消防・警察・企業は丸ごとpandemicという危機にさらされます。

この事態を抑え込むには自施設と他法人・各種団体との垣根を超えた多角的連携がカギです。悲惨な結果を招く前

に、私たち老人保健施設が初めの一步を踏み出し関係団体との連携を呼びかけましょう。

with Corona/after Corona時代のnew normal (新しい当たり前のこと)とは?

有効なワクチンと抗ウイルス薬がない現在をwith coronaと言います。Covid-19は高齢者を狙い撃ちします。施設内に病原体を持ち込まないために、マスク着用/手指の消毒/3密を避け換気に努めるとともに検温などの体調管理に努めます。このような新しい生活様式を「new normal」と称します。さらに、目に見えない相手には科学的対策が求められます。中でも、抗原検査は無症状あるいは軽症の感染者を早期発見できます。

一方、WEB会議や研修会、SNSを用いた面会なども有効な感染対策です。Covid-19によるpandemic disasterが過ぎ去っても元の社会に戻れないと言われていきます。すなわち、「with corona」の今、取り組んでいる事柄そのものが「after corona」時代の「new normal」となります。

おわりに「凡事徹底」

接触飛沫感染のCovid-19は「communication」を生命線とする私たちへの宣戦布告と言っても過言ではありません。この危機を乗り越える王道は一人ひとりが身の回りを整える「凡事徹底」しかありません。必ず! 「冬は春」となるはずは

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております!

今年度はコロナ禍で企画していた研修会が中止になるなか、9月のリーダー研修では道老健協初のオンライン研修を開催し、たくさんの施設にご参加をいただきました。ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症対策というテーマ、そして遠方からも参加しやすいといったメリットもあり、大変好評でした。画像の乱れや画角などの課題もありましたが、今後活かしていきたいと思っております。これからも研修のご参加をよろしくお願ひ致します。

(介護老人保健施設コミュニティホーム白石/遠藤久行)

2020年は、新型コロナウイルス一色の1年でしたが、中でも老健として担う役割や出来ることを少しずつ模索し、新たな時代に沿った在り方が形成しつつあることを日々感じています。各研修会についてもその一つで、道老健協としても初のオンライン研修会を実施しました。今後は、このようなスタイルでの研修もさらに増えていくことが予測されるなか、3月には支援相談員向けセミナーがあります。今年も引き続き変化の年になると思われませんが、老健本来の役割を保ちながらも柔軟な対応が出来るよう努めて参ります。

(介護老人保健施設グリーンコート三愛/菊地芳一)

特集

支援相談員の活躍が 老健の行く末を決める!

老健施設の顔とも言われる支援相談員。その役割は、入退所相談やベッドコントロール、利用者家族の相談、外部との折衝など幅広く、施設によっても様相が異なります。有識者より、支援相談員に求められる心構えをひも解くとともに、事例から取り組みの実際と課題について紹介します。

地域の問題をともに考え 困っている人の選択肢の1つになろう

北翔大学 教育文化学部心理カウンセリング学科 講師 **寺田 香**



業務の核は対人援助

老健において、支援相談員はどのような役割を担っているのでしょうか。利用者さんの入退所の調整係、あるいはベッドコントロールを行う職種でしょうか。いずれも間違いではありませんが、支援相談員という仕事の核となるのは何といても対人援助です。しかし、在宅復帰率を高めながらベッド稼働率の維持・向上を推進する老健においては、自施設のサービスありきの場当たりの対応に追われ、支援相談員が本来解決しなくてはならない問題が置き去りにされてしまっているのではないのでしょうか。

また、昨今では新型コロナウイルス感染症も、高齢者にさまざまな影響を及ぼしています。生活の不安や家庭内のストレスによる高齢者虐待、「8050問題」*1といった問題においては、これまで何とかバランスを保って生活していたところにコロナという刺激が加わり、一気に生活が崩れてしまうという恐れが指摘されています。社会資源の1つであり、在宅支援が位置づけられている老健の支援相談員としては、決して見逃せない事象です。

大事なものは一緒に揺れて考えること

支援相談員が、全うすべき対人援助は、どれだけIT技術が進歩しても、決してAIがとって代わるものではありません。それは、人同士の対話のなかでは、言葉では語れない部分に、さまざまなことが隠れているためです。相手から何気なく出されたSOSをどれだけキャッチできるかが、対人援助職の腕の見せ所でもあるのです。

かつての私もそうでしたが、対人援助職は、利用者さんからの質問にすぐに答えられたり、すぐに解決策を提示できなくてはならないという意識がありました。でも、人が抱えている問題は多種多様で複雑な問題をはらんでおり、本来、そう簡単に解決できることは少ないはず。大事なものは、そうした問題について相手と波長を合わせて一緒に考える、すなわち「一緒に揺れる」ことではないでしょうか。そのうえで、その人の自己決定をうながすのが対人援助の原則です。

多職種で対人援助の意義の再確認を

顕在化されていないものも含めた地域の問題を、どれだけキャッチできるかが、その老健が存在する意味だと考えています。そのため、支援相談員の皆さんには、日頃から地域でネットワークを構築するなど間口を広くし、地域の対人援助=ソーシャル・ワークをいかに担っていくかという意識が欠かせません。自施設を利用する人だけ、要望のある相談にだけに対応していると、いざ困難な事例が来ても対応できず、老健としての在宅支援の役割を發揮しているとはいえないでしょう。

たとえ自施設の入所につながらなくとも、地域に啓発し、種まきを行うことで、ゆくゆくは地域で困っている人たちの選択肢の1つになれるかもしれません。

その際、注意が必要なのは、対人援助を行う際のエビデンスです。善意だけではなく、事実や客観性などはあってしかるべき。施設の経営を成り立たせるためにも不可欠です。

そうした意味からも、いま一度、施設としてどう支援相談員の役割を位置づけるのか、見直すことも必要かもしれません。「人を支援する」ということは何か」という指針や認識を、支援相談員だけではなく、多職種で統一するのです。

対人援助は、「こんなはずじゃなかった」とこの連続です。支援している相談事例が思うように進むことなど、10件に1件あればいいほうかもしれません。しかし、支援相談員の皆さんの活躍は社会にとって必要です。ぜひ、その価値ややりがいを後進にも伝えていってください。

*1:80代の親が、長期間引きこもりをしているなど収入のない50代の子どもの生活を支える世帯を指す、社会問題

てらだ・かおり

2000年、北星学園大学大学院社会福祉学専攻修士課程修了、1994年、厚別老人保健施設ディ・グリュエーン開設に携わる。2006年から現職。社会福祉士やケアマネジャーなど対人援助職のフォローアップ研修等を通じ、人材育成に尽力。社会福祉士、介護支援専門員、精神保健福祉士

事例 1

開設時から組織の牽引役として活躍 利用者・家族への細やかなケアで信頼を築く

医療法人耕仁会 介護老人保健施設
セージュ山の手

DATA

- 超強化型
- 支援相談員6名
(うち入所3名、通所3名)

「稼働率100%、絶対満床」が合言葉

セージュ山の手では、ベッドコントロールは支援相談員だけが推進するものではありません。「当施設では『稼働率100%、絶対満床』がスローガン。そのため、入所相談をフロア職員が多忙等を理由に断るといったことはないですし、1床でもベッドが空いていれば困難事例をも受け入れるといった意識で、全員で体制を整えています」と事務長の岡田和博さん。さらに、もう1つの文化としてあるのは、開設時から支援相談員が事務長を務めるなど、支援相談員が組織の中心となって活躍する風土です。その1人である岡田事務長は、「期待が大きい分、求められる役割も多いため、少しずつ人数が必要となりました」と説明します。



「夢は支援相談員全員がケアマネジャーを取得すること」と岡田事務長

そうした環境の下、支援相談員は新規入所のニーズを見つけるため、積極的な活動を行っています。併設病院においては、毎月の法人会議からニーズをキャッチするほか、容態が安定している患者の元を支援相談員が訪問し、直接案内をしています。「認知症の方でも、病院から老健というワンクッションをはさむことで身心が安定し、在宅での生活を長く続けられる方も多くいます。本人とご家族にその必要性をお話ししています」と支援相談員の町田理紗さん。また、近郊老健で組織するネットワークのなかで、ざっくばらんに話し合い、ケースに適した老健でベッドを融通し合うこともあるといいます。

支援相談員が何よりも力を注いでいるのは、入所中に利用者や家族の心配事の解消に努め、安心感や信頼感を持ってもらうことです。「自宅に帰ることに不安を感じる利用者さんやご家族がいれば、じっくりお話を聞いてサポートします」（町田さん）。ここで活きてくるのが、町田さんを含め2人の支援相談員がケアマネジャーも兼任するという強み。「ケアマネジャーの視点からも利用者さんの生活に介入することが、確実なケアプランの作成につながり、支援



話しやすい雰囲気心がけています」町田さん

相談員としての実践になるため、対応の幅も広がりました」と町田さん。丁寧なアセスメントがあるからこそ、在宅復帰までも比較的スムーズに運ぶうえ、多くのリピート利用も生んでいます。

同じく支援相談員兼ケアマ

ネジャーを担ってきた岡田事務長はこう展望します。「ケアマネジャーの視点も身につけた支援相談員をもっと増やしたい。支援相談員のスキルを高め、1つでも多く地域の声を拾い上げていきたいですね」。

支援相談歴40年！ セージュ山の手・ 吉岡康子さんに聞く



家族会を発足し、積み上げてきた信頼関係

札幌で4つ目の老健として開設した当施設で、すべてゼロから作りあげなくてはならない状況でした。重視したのは、利用者さんのご家族との関わりです。やはり利用者さんの生活背景を知るためには、ご家族との接点は不可欠。とにかく、ご家族はどんな悩みを抱えているのか対話を重ねました。さらに、ご家族同士との交流を作るための家族会も発足。特に親御さんを入所させた娘さんは自分を責めてしまうことが多くあります。そんなときに同じ境遇の方と気持ちを分かち合うことで気持ちが救われるようです。男性が多い会では、毎日食事を作るのが大変だからと、息抜きにご家族同士で外食したりと、とても良い効果が生まれました。

あわせて、支援相談員の重要な役割の1つである地域との交流も大切にしてきました。印象的だったのは、近隣小学校との交流です。子供たちが遊びにきたり、こちらが出向いて紙芝居を披露したり、色々な企画を考えて取り組みました。そんなことを1年間継続していたら、当時問題になっていた小学校でのイジメが不思議と無くなったそうです。いじめられている子は、利用者さんが褒めてくれたり、喜んでくれることで自然と自信がつき、いじめていた子も交流を通じて人を思いやる心や、やさしい気持ちを育てていくことができたのだと思います。

支援相談員に必要なのは、聞く力、伝える力、企画力だと思います。私は採用面接で必ず「歌ったり踊ったりできる？」と聞くくらい、何でも屋であることを求めています。目的は、常に利用者さんと家族が幸せになること。それがブレなければあとは何ができるかを考えるだけです。私自身、母が病気になったときに相談員さんに支えられて心強かったという経験をしており、その存在の大きさを実感しています。人の心に残る支援相談員が育ってほしいですね。



事例 2

多職種へのアセスメントを大事に 地域の困難事例の受け入れ体制を構築

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)
北海道病院附属介護老人保健施設

DATA

- 超強化型
- 支援相談員3名
(通所・入所・ショートステイの担当制)

多職種への理解促進に注力

公的病院を母体とする北海道病院附属介護老人保健施設。公共性・公益性を重視することから、医療依存度の高い利用者の受け入れを積極的に行っています。なかでも、老健では受け入れ実績が少ない在宅酸素療法をはじめ、人工透析もショートステイでの実績を経て、長期入所における受け入れを試験的に開始しました。

こうした困難事例の実現において核になるのが支援相談員です。そもそも人工透析はショートステイで受け入れてはいたものの、治療が終わった休息期間での利用に留まり、人工透析の専門的な対応はしていませんでした。ショートステイ担当の支援相談員である松井貴世さんは、「どこまで利用者さんを支援できているのか疑問に感じていました」と振り返ります。そこに生じたのが、併設病院で透析を行うショートステイ利用者の長期入所ニーズです。「現場は新型コロナ対応もあって多忙ななか、水分管理や透析室までの送迎など負担が増すことは明らかでした。でも、当施設であれば適切な健康管理が行えて、在宅生活の継続がしやすい。多職種から理解が得られるよう交渉を重ねました」と主任の荒木耕一郎さん。看看護師長とともに併設病院と調整して勉強会を主催し、経験のない職員の知識を補ったほか、想定し得るすべての準備体制を構築。1カ月限定で長期入所に漕ぎ着けました。

さらに現在、検討しているのは経口摂取が難しくなり、中心静脈栄養が適応となる入所者の対応。困っている入所者のためにも、施設としての幅を広げるためにも何とか対応したいと画策中だといいます(取材後、受け入れが決まったそうです)。

支援相談員としての一番の悩みは、多職種の理解をどう得るかということ。受け入れのための体制整備はもちろん、心がけるのは、寄せられた相談の背景を説明し、施設としての存在意義を伝えることだと2人は強調します。「多職種には、本人やご家族が抱える事情を説明したうえで、『だから在宅生活を継続できるよう応援したいよね』と、ときには心情に訴えて説明します。話すタイミングも相手も相談内容によって考慮し、介護の情勢や施設の経営状況なども交えて理解を促すこともあります。でもこうした綿密な多職種へのアセスメントがあってこそ、はじめてケースが動くと感じています」と松井さん。荒木さんは、「難しいケースのほかにできるだけ負担がかからないよう調整を図ったり、問題が発生すれば一緒に解決策を考えるなど関係性が壊れないようなフォローは必須」としながらも、「支援相談員あるいは当施設の役割として、地域の難しい事例を救わなければ、存在意義はないと思っています」と確固たる信念を話します。



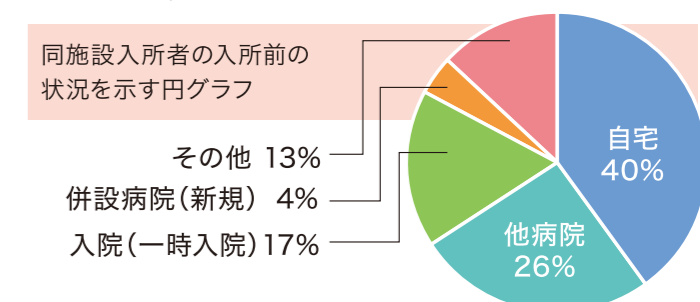
左から松井さん、荒木さん。荒木さんは支援相談員の業務効率向上への取り組みにも挑戦中

地域とのパイプを太く、併設病院に依存しない

医療依存度の高い利用者に加え、看取りケアにも意欲的な同施設。そのため、入所者を長期療養グループと在宅復帰グループに分け、それぞれ5対5の割合をベストバランスに掲げて、目的別のベッドコントロールを実施しています。「在宅復帰でハッピーになれないのであれば、特別養護老人ホームへの入所や長期療養ケースにするなど、サポート方法を柔軟に切り替えます」(荒木さん)。

また、ベッド稼働率の向上をめざすためには、併設病院への入院者が発生した場合は1週間をめどに待機者やショートステイ希望者に解放すること、そして治療後の再入所ができなかった場合は、一旦、連携病院で患者の体調を安定させ、その後、同施設に再入所してもらうといった具体策を講じています。ショートステイベッドを確保して在宅支援を行うことでも、地域からの入所相談も受けやすくなっているといいます。結果、併設病院からの新規入所実績はわずか4%にとどまり、ほとんどが居宅介護支援事業所や他院からの紹介で充足。併設病院に頼らない独自の立ち位置を確立しています。

2020年10月には、支援相談員の呼びかけにより、かねてから要望のあった短時間通所リハビリを開始しました。当面の課題は、これを軌道に乗せていくことです。「利用者はもちろん、職員にとっても納得いく支援ができるよう力をつけていきたい」と、2人は口をそろえます。



NEWS

「2020年度老健ソーシャルワークセミナー」開催!

2021年3月6日(土)
13:00~17:00

Zoomによるオンライン研修会となります。
右記より、お申し込みください。

北海道医療ソーシャルワーカー協会

検索

TOPICS 1

初のオンラインによる
リーダー研修会を開催！

当協議会は、9月19日、ZOOMを使用した初めてのオンラインによるリーダー研修会を開催。「老健における新型コロナウイルス感染症対策」をテーマに掲げ、講師に塚本容子教授（北海道医療大学看護福祉学部）をお迎えしました。

はじめに当協議会の星野豊会長が登場し、新型コロナウイルスのクラスターが発生した会員施設への支援に対するお礼を述べた後、「これからは、新しい形の介護を模索していかなくてはならない時代。皆さん力をあわせて頑張ってください」と呼びかけました。

続いて、塚本教授から新型コロナウイルスとインフルエンザの違い、感染経路や遮断方法、高齢者施設におけるクラスター発生事例から見る注意点などについて2時間超にわたる講義が行われました。講義のなかで塚本教授は、新型コロナウイルス対策では「マスク装着と手洗いの徹底」に加え、「原理原則を考えることの重要性」を繰り返し指摘しました。「新型コロナの基本的な知識は抑えながらも、自施設の状況に沿った実現可能な対策を講じることが有効。ウィズコロナ時代の新しい介護のあり方



アクリル板越しに講義を行う塚本教授



塚本教授からPPEの着脱方法の手ほどきを受ける看護委員

を生み出していかなくてはならない」と述べました。

感染者発生時の十分なシミュレーションを

また、現状の課題の1つとして、施設内で新型コロナウイルスが発生した際のシミュレーションの不十分さをあげ、「入所者さん、職員、ご家族など誰が感染したのか、搬送手段をどうするか、あらゆる場面を予測し、対応方法について職員の皆さんでディスカッションして欲しい。その際、入所者にとって何がベストであるかという視点を第一に考えて欲しい」と強調しました。

さらに、自分自身の感染の可能性も常に念頭においたうえで、万が一施設内で発症しても「誰も責めない」という意識の醸成、誰もがエラーを起こすことを想定したうえでのフォロー体制の構築、地域住民への情報発信の必要性等をあげました。

最後、塚本教授は「入所者さんが少しでも楽しみをみつけられるよう、工夫をして感染対策に取り組んでほしい」と締めくくりました。



複数の職員で聴講した老健施設も

TOPICS 2

北海道社会貢献賞&厚生労働大臣表彰者が決定！

2020年度北海道社会貢献賞
(介護老人保健施設事業功労者)受賞者

佐々木宣明さん

前・社会福祉法人旭川福祉事業会
老人保健施設サニーヒル副施設長



多職種平等で新生老健になった喜び

サニーヒルに1998年に入社して以来、20年以上にわたり、支援相談員という専門職として、2017年からは副施設長としてさまざま取り組んできました。なかでも“多職種協働”をヒントに“多職種平等”を掲げ、縦組織から横組織へと変革したことで、チーム力が向上し、離職率の低下、そして在宅支援型老健へと生まれ変わることができたのは大きな達成感と喜びでした。北海道老人保健施設協議会事務連幹事を務めた4年間も、自身を成長させてくれた貴重な経験でした。本当にありがとうございました！

大内敦史さん

社会福祉法人溪仁会
介護老人保健施設コミュニティホーム八雲

2020年度厚生労働大臣表彰者
(介護老人保健施設事業功労者)受賞者

福島詠里子さん

社会医療法人博友会
介護老人保健施設博寿苑



利用者さんの変化を見逃さないケアを

市立病院での准看護師を経て当施設に入職し、23年の月日が流れました。当施設は、認知症の入所者様が多いことから、やはり幅広い知識と技術が必要だろうと感じ、通信で勉強して看護師となりました。ケアで意識しているのは、一人ひとりの全身をくまなく診るということ。認知症は重度にならなければ、症状が表れにくい病気です。多職種と連携しながら、わずかな変化も見逃さないようにしたいです。新型コロナで不安な日々ですが、入所者様が楽しいと感じられるように支援していきたいです。

梅木幸江さん

社会医療法人孝仁会
老人保健施設星が浦

以上、4名の皆さん、おめでとうございました！ ますますのご活躍をお祈りしています！

ショートステイの活用で在宅を支援

医療法人社団豊生会 介護老人保健施設夕張

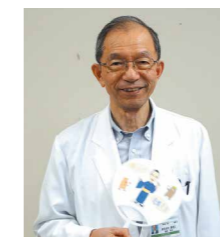
夕張市立診療所内1階に、2007年に開設された夕張。19床の病床を有する診療所と一体となって、地域の医療・福祉を支えています。なかでもショートステイは、1日平均4、5名が利用するサービスとして地域に浸透。「レスパイトをはじめ、農繁期の夏場は介護のための時間が取れないご家族から要望が増えます。1年を通して常連さんが多くいます」と課長の山辺ゆかりさんは説明します。

また、歯科と連携した口腔ケアにも注力。毎月の訪問歯科診療に加え、職員も歯科衛生士からの指導を受けながら技術を高めています。

課題としては、まだ実績が少ない在宅復帰について。地域に独居高齢者が多いといった理由から、思うように促進できていないジレンマがあると言いますが、数年前から法人本部のセラピストが派遣されるようになり、リハビリの強力なバックアップ体制が構築されました。少しずつですが在宅

復帰が実を結びつつあるという同施設。「これからも地道に実績を積み上げていきたい」と山辺さんは意欲を見せます。

19年6月からは、長くプライマリ・ケアに携わってきた前沢政次医師を施設長に迎えたことで、より地域活動にも力を入れています。「ゆうゆう寄り沿いくらぶ」は、前沢施設長の呼びかけにより、住民を対象に介護予防に関する講話や体操などを通じて健康づくりをめざすことを目的にスタート。今は新型コロナウイルス感染症のため休止していますが、いつもは、一般市民だけでなく社会福祉協議会や地域包括



前沢施設長



山辺さん



ゆうゆう寄り沿いくらぶで運動の大切さを説く前沢施設長

支援センターの職員など、30名ほどの参加者が集まる人気イベントになっています。

前沢施設長は、「病院にも特別養護老人ホームにもない老健ならではの役割を果たしていかなければなりません。「生き方に寄り添う医療・福祉」をスローガンに、在宅復帰・支援も取り組んでいきたいですね」と、今後の展望を語ります。

- 住所/夕張市社光20
- TEL/0123-52-4336
- 入所定員/40名
- 通所定員/20名



温かな雰囲気の中で看取りケアを実践

医療法人社団恵庭南病院 介護老人保健施設マオイの里

長沼町内で農家を営む利用者が多くを占めるマオイの里。野菜の収穫時期には利用者家族から採れた野菜をもらうことも多く、地産地消の食事が並びます。また、職員は地元在住者がほとんどで勤務年数も長いので、「利用者さんともとの知り合いだったり、誰かのおばあちゃん、といった確率が高いですね」と支援相談員の松明伸幸さんは話します。

そんなアットホームさが魅力の同施設が力を入れているのは、看取りケアです。「胃ろ



前列左から杉本さん、島田實名署施設長、中山さん、後列左からケアマネジャーの間宮由紀子さん、西部施設長、松明さん

うの利用者さんも多いのですが、なるべく最期まで口からも食べられるよう働きかけています。褥そうなどを予防する環境整備はもちろん、入所当初から好きな食べ物や趣味などを聞き出して、それをもとに気持ちよく過ごせるようお手伝いしています」と介護主任の杉本恵さん。看護主任の中山美知代さんは、「どうすれば利用者さん本人とご家族が納得できる最期を迎えられるのか、看取り委員会を通じて議論を重ねています。エンゼルケアをご家族さんと一緒に行うこともあります」と説明します。亡くなった後の家族へのフォローを行うなかでは、「『ゆっくり見送ることができてよかった』といった声をかけられることもあり、報われる思いです」と松明さん。そんなことから、一時、体調不良で病院に入院をしても、最期は同施設で過ごしたいと戻ってくる利用者も少なくありません。

看取りケアに向けて勉強会も開催。対象者がいるときは月に1回、対象者不在のとき

は2カ月に1回を目途に、西部学施設長を講師に知識や技術の向上を図っています。

今は新型コロナの感染対策に心を砕く毎日。レクリエーションが出来ない分、利用者を車に乗せて気分転換に町内をドライブすることもあるとか。「利用者さんが楽しく過ごすことができるよう、全職員で取り組みます」と皆さん口をそろえます。



全職員が参加する看取り勉強会

- 住所/夕張郡長沼町東5線北4
- TEL/0123-88-1661
- 入所定員/80名
- 通所定員/20名

株式会社ほくやく

札幌市中央区北6条西16丁目1-5

地域の健康ネットワークを支え、流通のあすを創造します。

パラマウントベッド株式会社 札幌支店

札幌市中央区南2条西13丁目318-11

ケアを必要とする方、医療や看護・介護に携わる方のニーズを超えるやさしさを基軸とした製品をお届けしたい。アメニティの向上・安全対策・インテリアプランニングまで、ご相談ください。

白十字株式会社 北海道営業所

札幌市北区新琴似1条2丁目3-13

弊社は、1896年の創業以来、日本の衛生材料の歴史と共に歩んできました。また、高齢化社会を見据え、いち早く大人用紙おむつを開発。皆様の健康に、微力ながら寄与しています。

株式会社モロオ

札幌市中央区北3条西15丁目

1917年の創業以来、弊社は医薬品の供給と情報の提供を通じ、健康と生活に貢献する企業を目指してまいりました。今後も、北海道の医療・福祉に貢献していきたいと考えます。

株式会社LEOC

札幌市中央区北1条西4丁目2-2札幌ノースプラザ6F

経営理念である『お客様に喜びと感動を・従業員に成長と幸福を・社会に貢献を』を基に、人を大切に、様々な取り組みで社会、地域、環境に貢献できるよう努めています。

ワタキューセイモア株式会社 北海道支店

小樽市新光5丁目13-3

リネンサプライ業(寝具・白衣・タオル・カーテン・マットレス・セットレンタル) 販売(白衣類・紙おむつ・消耗品・ペット等) 業務請負業(リネン管理・清掃・中材・SPD等)

株式会社ワイズマン

札幌市東区北7条東3丁目28-32井門札幌東ビル6F

15年を超える介護向けクラウドサービスと医療向けシステムの実績をもって皆様の課題をサポート。医療介護初Zoom連携や各社センサーとの連動で勤務時間短縮、業務の非接触化をお手伝いします。

東洋羽毛北部販売株式会社 札幌営業所／旭川営業所

札幌市白石区菊水元町8条2丁目2-1／旭川市曙1条6丁目1-7 北友ビル1F

募金の証となる「赤い羽根」の考案に参画したことをきっかけに、羽毛ふとんの製造から販売までを一貫して行っている羽毛ふとんのメーカーです。医療・介護従事者の方によい眠りを提供します。

吉岡マネジメントグループ 株式会社吉岡経営センター

札幌市中央区北6条西24丁目1-30YMビル

介護施設、病院や診療所に特化し、新規事業開設支援、経営改善支援、人事・賃金制度構築支援、管理者研修の実施等、様々なニーズに対応したコンサルティングを提供しています。

ピジョンタヒラ株式会社

札幌市厚別区厚別中央2条5丁目3-31 3F

ピジョンタヒラは『愛』をかたちにした良質な介護用品を介護施設様・小売店様を通じて、高齢者及び介護を必要とするすべての人々の健やかな毎日を支援する企業になりたいと考えております。

ジャパンエレベーターサービス北海道株式会社

札幌市豊平区水車町6丁目3-1

エレベーターのメンテナンス専門会社、国内主要メーカー各機種メンテナンスが可能！さらにランニングコストダウンが可能です、安全第一を掲げ東証一部に上場しており、道内8カ所の拠点体制。

NDソフトウェア株式会社

札幌市中央区大通西13丁目4-101 レジディア大通公園3F

業界トップシェアのほのほのシリーズは、タブレット版の音声入力やネックスピーカーによるデジタルインカム、AIケアプラン、R4など介護で働く皆さんをサポートします！

株式会社レゾナ

群馬県伊勢崎市葦塚町675

当社のソフトウェアは、『医療施設＋介護施設＋在宅』のコンセプトがもたらす、最適／快適／適処／そして適切の実現を目指した「地域包括ケアソリューション」を提供します。

太陽化学株式会社

東京都港区浜松町1丁目6-3

世界30カ国、国内5,000カ所の医療・介護現場で使用されている高発酵性食物繊維「サンファイバー」。食物繊維のチカラで皆様の排便ケアをサポート。

ユニ・チャーム株式会社

東京都港区三田3丁目5-27住友不動産三田ツインビル西館

ライフリーはQOL向上の視点で「夜間良眠と離床促進、自立排泄の推進、スキンケア」の3つのコンセプトに加え、感染予防を取り入れた新しい排泄ケアモデルを推奨しています。

株式会社モルテン

札幌市中央区北7条西13丁目9-1塚本ビル6F

株式会社モルテンでは、床ずれ防止用エアマットレスや生活動作を支える手すり、口腔ケア用品など、医療や福祉の現場で必要とされる製品を研究・開発し供給しています。

エーザイ株式会社

東京都文京区小石川4丁目6-10

医療の主役が患者さまとご家族、生活者であることを明確に認識し、そのベネフィット向上を通じてビジネスを遂行することをhhc(ヒューマンヘルスケア)の企業理念に掲げています。

ジャパンエアマット株式会社 札幌支店

札幌市白石区中央1条3丁目3-35

弊社では施設・病院専門のエアマット・マットレス等のレンタル・リースを中心としたサービスを北海道全域で対応しています。コロナウイルス対策もしており、1日1台からのご利用が可能です。

王子ネピア株式会社

札幌市北区北7条西4丁目12日本生命札幌北口ビル9F

よりよい介護の明日のために「排泄ケアにかかわる解決策」を、「みなさまの声に応える商品」を、「選ばれる安心と信頼」を、「明日の笑顔」を、共に創ります。【共創介護・ネピアテングー】

株式会社エラン

長野県松本市出川町15-12

入所生活に必要な衣類・日常生活用品などを日額定額制でレンタルいただけるサービス「CSセット」を提供しています。入所生活でのトラブルを保証するサービスも付いています。

株式会社アースアンドウォーター

札幌市東区北16条東16丁目1-1東豊ビル3F

弊社は節水にて経費削減をご提供している会社です。全国の老人保健施設様でご導入頂いております！道内唯一のメーカー直営店の為、アフターフォローも充実しております。

第一法規株式会社

東京都港区南青山2丁目11-17

第一法規株式会社は、お客様の声を聴きながら法令情報をもとに、医療・介護事業における業務効率・人材育成を、書籍やデータベース等多彩な商品を通じ支援しています。

株式会社YKスチール

石狩市新港南1丁目22-7

電解水生成装置／太陽光発電設備の販売・設置・メンテナンスを行っています。特に電解水を使った衛生管理システム・衛生洗濯システムを提案致します。

株式会社キプラス

札幌市中央区北1条西5丁目2札幌興銀ビル

可能な限り北海道地物食材を中心に細かな要望や対応を旨とした食事対応を志すよう心がけています。米は精米した物を10日以内に提供、こだわりの卵を契約農家様からお届けします。(一部除外先有)

イーシームズ株式会社 北海道営業所

札幌市中央区大通西7丁目札幌小学館ビル4F 遠藤照明内

光は人間の健康にとっても重大な要素を含んでおります。おいしく見える光(食べ残しが減る)、体内リズムを整える光(良質な睡眠)、レンタルシステムで初期投資なしでLED化出来ます。

株式会社土屋ホームトピア 福祉用具貸与・販売事業所[RAKUKAI]

札幌市厚別区厚別南1丁目18-1

福祉用具レンタル・販売、住宅改修他、資産計画等も含めた総合的な住環境全般にわたるニーズへ、きめ細かく、建築・医療・介護の国家資格者がワンストップでお応えします。